

体 育 科 学 習 指 導 案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 北森 瑞希

1 日時 令和6年11月1日(金) 第2校時 熊野第四小学校体育館

2 学年 第4学年2組 男子12名 女子8名 計20名

3 単元名 「大きな壁を跳び越えて！進めようみんなの跳び箱ストーリー！」
B 器械運動 ウ 跳び箱運動

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編第3・4学年「B 器械運動」「ウ 跳び箱運動」を受けて設定した。跳び箱運動では、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した切り返し系（開脚跳びなど）や回転系（台上前転など）の基本的な技に十分に取り組んだ上で、発展技に取り組む力（知識及び技能）や、自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える力（思考力、判断力、表現力等）、運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりする力（学びに向かう力、人間性等）を育成することをねらっている。

(2) 教材観

跳び箱運動は、開脚跳びを含む切り返し系と台上前転を含む回転系の2つに分かれ、第3学年で切り返し系の基本的な技を習得したことを踏まえ、本単元では回転系の基本的な技を習得することを目指している。跳び箱運動には、「助走・踏切り・着手・回転中の姿勢・着地」といった技を構成する5つの動作があり、技を成功させる大きなポイントとなっている。例えば、助走をリズムカルにすることや両足でしっかりと踏み切ること、両手で着手し体を支えること、着地に向かうまでの回転姿勢、そして、両足で着地することが大切となる。

また、跳び箱運動は比較的短時間で一つの技が終わってしまうため、自分自身の動き方や課題に気付きにくい特徴がある。一方で、動画やリフレクションタイム用人形（以下「RT用人形」とする）を活用して自分の様子を客観的に見ると、技の完成度が高まりやすいという特徴もある。これらの特徴も踏まえ、RT用人形やICT機器を活用しながら自他の技を振り返ることも必要になる。

本単元では、単元を通して「すごろくとびばこ」に取り組む（後掲資料参照）。これは、マス目に技の一連の動作がポイントごとに示されたすごろくで、技の習得・習熟が進むとすごろくのコマも進むようになっており、技の完成となるゴールを目指して取り組んでいく。この教材を設定した理由は3つある。

1つ目は、こまの進み具合で学習の成果を確認・実感できる点がある。本教材はマス目に示してある課題をクリアするとこまが進むというように、成果を視覚的に実感できるものになっている。成果を視覚的に示すという点において、自分の頑張りと伸びから「できた」という思いを感じたり、その積み重ねを実感できたりすることをねらいとしている。こうした達成感を実感できる場を設けることで、児童が運動の楽しさに気付ける機会としたい。

2つ目は、児童がスモールステップで技に取り組める点である。技能面の理解や習熟に課題があったり、跳び箱運動へ苦手意識があったりする児童が、一つの技を細かなポイントに分けて取り組むことで、一つ一つの動きに集中して取り組むことができる。

3つ目は、すごろくのマス目に示す内容は、児童がつまずきやすい点を考慮し、技の段階をスモールステップで表すことによって、児童の学習への意欲の向上に繋げる点である。児童に、自分たちで学習を進めていく実感をもたせ、関心・意欲を高めることをねらいとしている。

本単元はこれらの活動を取り入れることで、技の習得だけでなく、友達と関わり合いながら互いに自分の力を伸ばしていくことができるものである。

(3) 児童観

本学級の児童は、体育科の学習でグループでの話し合いなど関わり合いを好む児童が多く、単元前の「体育の授業では、友達のアドバイスを生かすと、できるようになったことがありましたか。」「体育の授業では、振り返りで分かったこと・考えたことを使ってできるようになったことがありましたか。」というアンケートには、90%の児童（20人中18人）が肯定的な回答をしている。この児童の実態を生かして、学習の中に適宜振り返りの時間（リフレクションタイム、以下「RT」とする）を設けることで、グループ内や学級全体で技能を高めたり、思考を深めたりする学習展開にしていくことが有効であると考ええる。

一方で、単元前の「跳び箱運動は好きです。」というアンケートに対しては、40%の児童（20人中8人）が否定的な理由を含む回答をしている。この項目に関して、理由を考察してみると、「跳べないから恥ずかしい。」「怪我をするのが怖い。（怪我をした経験がある。）」という記述が見られた。これらの課題を解決するために、まずは、児童にとって安全で、安心できる場の設定をすることが大切であると考ええる。その上で、自分の能力や課題に合う場を選ぶことで、スモールステップで跳び箱運動に必要な動きを身に付けていく必要があると考えられる。

(4) 指導観（太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点）

指導にあたっては、課題解決のための試行錯誤を促す手立ての一つとして、ICT機器を取り入れる。教材観でも述べた通り、跳び箱運動は技が短時間で完結するという特徴がある。そのため、自分の動きをタブレットで動画撮影し、自分や友達の動きを何度も見直すことで、互いの動きのよさや課題を見付けたり、友達の動きのよさを自分の動きに取り入れたりして、友達との関わりの中での技の習得・習熟に繋げたい。また、安全面にも配慮しながら、台上前転に必要な動きを見取れるようにするためにRT用人形を使用する。例えば、着地の指導をする際、誤って背中から落ちる例を児童にさせるのは危険であるため、RT用人形の使用が、再現性という面で効果的であると考ええる。

単元の構成としては、第1次で学習の進め方やきまり等に関するオリエンテーションを行い、手本となる跳び箱運動の動画と自分の動きを見比べ、自分の技の現状を把握し、目指す姿を捉えさせる。

第2次では、台上前転の技の習得・習熟に取り組む。それぞれの技の基礎的なポイントをおさえ、よりよい台上前転をするためにはどうすればいいか、グループで場の選択やアドバイス、振り返りを行い、仲間と協力しながら技の習熟を目指す。また、どの児童も自分の現状や課題を明確にできるよう、考える視点を与えた上で、手本の動画と自分の動きを比較したり、グループで話し合ったりする時間を設ける。加えて、ゆりかごやカエルの足打ち等の系統的な慣れの運動に取り組んだり、それぞれの課題に即した多様な練習場所を設定したりして、全員が技に挑戦しやすい場をつくる。

第3次では、第2次で習得した技をグループで組み合わせ、発表会を行う。本単元のまとめとして、台上前転や自分ができる技を発表し、友達や自分の頑張りを認め合う場として設定する。

本単元では、単元を通して、グループと全体の2つの場でのRTを設ける。グループでのRTは、グループのメンバーそれぞれの課題について、アドバイスをしたり新たな課題を見付けたりする時間とする。全体でのRTは、グループでのRTを繰り返す中で得た気づき等を、全体で共有することを目的として設けている。グループから全体へ、RTの場を広げることで、新たな気づきや自分の課題を解決するためのヒントを得る場とし、仲間と活動することや、振り返りをするもののよさに気付かせたい。

5 単元の目標

知識及び技能	跳び箱運動の行い方を知るとともに、自己の能力に適した切り返し系（開脚跳びなど）や回転系（台上前転）の基本的な技ができるようになること、また、基本的な技に十分取り組んだうえで、それらの発展技に取り組むことができるようにする。
思考力，判断力，表現力等	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
学びに向かう力，人間性等	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	① 跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ② 切り返し系（開脚跳び）や回転系（台上前転）の基本的な技ができる。 ③ 基本的な技に十分に取り組んだ上で、発展技（伸膝台上前転）にも取り組むことができる。
思考・判断・表現	① 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫している。 ② 自己の考えたことを友達に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	① 跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ② きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしている。 ③ 友達の考えを認めようとしている。 ④ 場や器械・用具の安全に気を付けている。

本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける問い）
跳び箱運動の楽しさって何だろう。

単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく問い）
台上前転を学級のみならず上達させていくためにはどうすればいいだろう。



次	第1次	第2次					第3次	
時数	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8
0分	①オリエンテーション (用具や場の準備・学習のルー ルなどの確認)	①整列・挨拶・準備運動・場の準備						
	②慣れの運動	②慣れの運動（自分の課題に応じて、慣れの場を選ぶ）						
	③めあての確認 「器械の準備の仕方や授業の ルールを知ることができる。」	③めあての確認						
	④試しの運動①	④試しの運動①～課題発見～						
45分	⑤リフレクションタイム	⑤リフレクションタイム						
	⑥試しの運動②	⑥試しの運動②～課題解決に向けて～						
	⑦振り返り（個人）・片付け・挨拶	⑦振り返り（個人）・チャレンジタイム・片付け・挨拶						
	◆予想される振り返り ・跳び箱運動の場づくりの 仕方や、学習のルールを知 ることができた。 ・これらの学習を頑張っ ていきたい。	◆本時のめあて まっすぐな回転を意識して跳び 箱の上で前転をすることができ る。	●本時のめあて 跳切りを意識して2～3回の跳 び箱で前転をすることができ る。	◎本時のめあて 跳び箱の上で前転し、安定した 着地をすることができるとい う。	☆本時のめあて これまで習得したポイントをも とに、台上前転に取り組むこ とができる。	★本時のめあて 台上前転をレベルアップさせる ために、課題を解決するための 場を選ぶことができる。	◇本時のめあて 台上前転で学習したことを生か して、伸張台上前転にチャレン ジすることができる。	■本時のめあて 4～2オリエンティックで、これま で頑張った成果を発表すること ができる。
主なる 指導 事項	①（観察・ワークシート）	②（観察・ICT）						③（ワークシート・ICT）
	②（観察）	③（観察・ワークシート）						④（ワークシート・ICT）
	③（観察）	④（観察）						⑤（ワークシート・ICT）
	④（観察）	⑤（観察）						⑥（ワークシート・ICT）



目指す児童の姿（ゴールイメージ）
友達との関わり合いを通して、跳び箱運動の楽しさにふれることができる児童

8 本時の学習展開（本時第6時／全8時）

（1）本時の目標

- ・台上前転をレベルアップさせるために自分の課題を発見し、解決するための場を選んで活動することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

（2）学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ☆児童の気付き RT・・・リフレクションタイム ① 課題発見RT ② 課題解決RT ③ 本時のめあてRT ④ 見つめ直すRT ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価（☆） 【評価方法】
1 グループで運動の場 や用具の準備を行う。 2 準備運動をする。 3 慣れの運動を行う。	◇グループで集団意識を高めるとともに、器械を安全に取り扱うことを意識させるために、各グループに声掛けを行う。 ◇主運動につながる準備運動をゲーム形式で行うことで、学習への意欲を高める。 ◎前時までの学習を振り返り、自分の実態に合わせた場を選んで練習できるようにする。	
【RTに繋がる働きかけ】 観察する場面を焦点化することで、友達の動きのよさや課題に気付かせる。 （助言・評価・問いかけ）	着地の国 教師 回転の国 （マット） 踏切の国 （マット付き 1・2段） 踏切の国 （マット付き 2・3段） 台上前転 （4段） 台上前転 （4段） 台上前転 （3段）	
4 本時のめあてを確認する。 【◎本時のめあてRT】	◎グループ内のメンバー同士で観察し合い、気付きを伝え合う。 ◆観察する場面を焦点化したり、ワークシートに観察の視点を具体的に示したりして、全員が活動に参加できるようにする。 ◇上手くいっている例と上手くいっていない例を取り上げ、どのようにすればいいかを全体で話し合うようにする。 ◆RT用人形やICT機器を活用することで、視覚的に理解させやすくする。 【RTの教師からの発問】 ・跳び箱の上で回れるようになりましたね。では、今以上にまっすぐ回るには何に気を付けたらいいですか？ ☆児童の気付き ・助走をつけると上手く回れるのかな。 ・手は手前につくとよかったね。	

台上前転をレベルアップ（リズムよく助走する・強く踏み切りをするなど）させるために、課題を解決するための活動の場を選ぶことができる。		
5 ミニRTで、グループ内で動きを確認し合い、課題を見付ける。 【①課題発見RT】	■自分の「わかる」「わからない」「できる」「できない」ことをチームで見合うことで、よりまっすぐ台上前転をするための自身の課題を発見させる。 ☆児童の気付き ・前時よりも手の付き方がよくなっているね。 ・上手く着地するためにはどうすればいいかな。	
6 試しの運動①を行う。	◇見付けた課題を基に、解決の場を選ばせる。 ■グループ単位で動き、異なる技能レベルの児童で話し合わせることで、学級全体で技能の向上を図ったり、思考を深めたりすることができるようにする。	
7 RTを行い、各グループの達成感や困り感を全体で共有する。 【②課題解決RT】	【RTの教師からの発問】 ・〇〇さんがまっすぐ回れているのはなぜでしょうか。 ・もっとまっすぐ回るためのポイントはなんですか？ ☆児童の気付き ・助走をつけると、まっすぐ回れるようになります。 ・手を手前につくと、背中から落ちません。 ◇各グループで出た、課題解決の手立てを全体で共有することで、クラス全体で解決しようとする意識を高める。 ◆RT人形やICT機器を活用することで、理解の向上を図る。 今日のポイント ・リズムよく助走すると踏み切りやすい。 ・両足で強く踏み切り、お尻を高く上げる。 ・両手で手前に着手する。 ・頭の後ろをつけて前転する。	【キーワード】 ・リズム ・両足 ・手前 ・頭の後ろ ・まっすぐ回る ・手が平行
8 試しの運動②を行う。	◇RTで聞いた友達からの気付きを基に、技に再チャレンジさせる。	
まとめ 自分の課題に適した場所で練習することで、台上前転をレベルアップ（改善）することができる。		
9 振り返りをする。（個別での振り返り）	◇自分や友達の課題や困り感に対し、どのように取り組んだか、取組の成果を振り返るように声かけをする。	☆自己の能力に適した課題を見付け、課題を解決するための活動を工夫している。（思考・判断・表現）【ワークシート・ICT】
10 チャレンジタイムをする。	◇本時の成果として、グループ内で台上前転のミニテストを行い、互いの成長を見合わせる。	

大きな壁を跳び越えて！進めようみんなの跳び箱ストーリー！		6	4年()組 名前() メンバー:
めあて	台上前転をレベルアップさせるために、課題を解決するための活動の場を選ぶことができる。		
①自分の課題を見付けよう！ (わからない・できないこと、チャレンジしたいこと)	②冒険する国を決めよう！ (気づきや考えたことも書いてみよう！)	③グループで助け合おう！(一人の課題＝みんなの課題)	
			
学習を終えてのふり返り(分かったこと・考えたこと・次回チャレンジしたいこと)			

大きな壁を跳び越えて！進めようみんなの跳び箱ストーリー！～台上前転の地図～

回転の国

高さのあるマット（3枚）の上で前転！

マット付きとび箱（1段）の上で前転！

とび箱（1・2段）の上で前転！

立ち止まったら、踏切、着地の国へ・・・！！

踏切の国

踏切板・ロイター板の上で踏切練習

両足で踏み切って、跳び箱の上で前転！

とび箱（3・4段）の上で前転！

立ち止まったら、回転、着地の国へ・・・！！

着地の国

ステージの上で前転して、両足着地！

跳び箱の上で前転して、両足着地！

とび箱上で前転して「ふらつかずに」両足着地！

立ち止まったら、回転、踏切の国へ・・・！！